



## 高校野球のマナーとルールを学ぼう (第51回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。  
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えします。

### 特集編

シーズン当初の特集として改正規則から主に関係分を掲載します。( < >内の数字は改正規則7項目と高校野球特別規則の通し番号です。)

<3>規則4・05【原注】の末尾に《ベースコーチは、用具の交換を除き、走者の身体に触れてはならない。》を追加する。

【解説】規則4・05はベースコーチの遵守事項です。一・三塁のベースコーチが、走者に触れたり支えるなどして走塁や帰塁に関する肉体的援助をしたり、野手の送球を誘致した時のペナルティは「走者のインターフェア」として、以前から7・09(h)(i)に規定されています。

<6>規則8・05(d)に《【原注】投手が走者のいない塁に送球したり、送球するまねをした場合、審判員は、それが必要なプレイかどうかを、走者がその塁に進もうとしたか、あるいはその意図が見られたかで判断する。》を追加する。

【解説】前回の本ページで確認のとおり、偽投が許されるのは二塁だけです。例えば、二塁走者が三塁へ走ったので、投手板から三塁へ送球するのは必要なプレイとして認められますが、送球を途中でやめたり、送球のまねをすればボークとなります。

<7>規則9・02(c)【原注2】の3段目に《監督または捕手からの要請は、投手が打者への1球を投じるまで、または、たとえ投球しなくてもその前にプレイをしたりプレイを企てるまでに行わなければならない。インニングの表または裏が終わったときの要請は、守備側チームのすべての内野手がフェア地域を去るまでに行わなければならない。》を追加する。

【解説】ハーフスイングへのアピールに関して、盗塁や牽制などのプレイがあってもアピール権の消滅にはなりません。

<高7>規則3・05(d)に関して、高校野球では規則適用除外の取扱いとする。

【解説】規則3・05は先発投手・救援投手の義務を規定しています。高校野球の実態を考えれば、試合中に混乱を招く可能性があることから規則適用除外となりました。

### <高15>タイブレーク制度の採用について

【解説】兵庫高野連では、硬式は27年度春季(近畿)地区大会から、軟式は4月18日から始まる春季4ブロック大会・近畿地区大会へとタイブレーク制度が導入されることになりました。

軟式春季4ブロック大会の開始インニングは「12回終了時で同点、13回から」を主催連盟として選択しています。具体的には「無死、走者一・二塁の状態から行う／初回の攻撃を開始するにあたり打順を選択することができる／次回以降は前インニング終了後からの継続打順」などが主要規定です。初めての実施ともなれば、記録の取り扱いなども含め規則を慎重に確認しましょう。

タイブレーク制度が採用されたため、昨年まで<高14>で規定されていた「サスペンデッドゲームは…」の条項は削除されました。